

## 私らしく笑顔で。そして一生懸命に。



西谷 佳純

EM 部教育課

附属学校事務室

(小学校担当) 主任

産休・育休取得期間

1 回目：約 1 年 2 ヶ月  
(2017.5 - 2018.6)

2 回目：約 1 年 1 ヶ月  
(2020.6 - 2021.6)

出 産

2017.6 (第 1 子)

2020.8 (第 2 子)



順番に発熱しお休みした 9 月



保育園がクラス閉鎖になりお休みした 11 月

### 【産休・育休に入るまで】

私の場合、第 1 子、第 2 子妊娠時つわりがひどくなった頃(妊娠 8～9 週)に上司に報告しました。この頃から吐き気や立ち眩みがひどくなり、席を外してしまうことが増えたためこのタイミングだったと思います。

当時は人文社会科学部の教務を担当しており、これからが繁忙期(第一子妊娠時は学部改組が控えていました)という時期でしたが、同僚や先生方のサポート、優しい学生さんの気遣いのおかげでなんとか乗り切ることができました。

安定期に入る頃には、具体的に育休の期間を上司と相談し決めました。書類関係は担当の職員の方が丁寧に説明してくれ、何の不自由もなく完了しました。産前はたしか共済の掛金免除申請や休暇の手続きだったと思いますが…どれだけ周囲に頼りっぱなしだったのかと痛感しています。

### 【産休・育休に入ってから】

産前休暇については、まずは自分の体を休める時間となりました。また、出産準備や自宅の掃除、先輩ママと話をする時間を持つことができ、心身ともに余裕を持って出産に臨むことができました。

出産直後は、役所での手続きや大学に提出する書類が多々ありますが、私にはそんな余裕もなく、ほぼ夫が引き受けてくれました。(期限が短いものが多いので事前に確認しておくことと安心かもしれません)

我が家の場合、夫は育児休業を取得しませんでした。山形大学には「子の養育のための休暇」(出産予定日の 8 週間前の日から当該出産の日後 8 週間を経過する日までの期間に男性が取得できる特別休暇)があり、私や子どもの体調等に合わせたその都度取得してくれ、とても助かりました。

また、金銭面については、産休中は給与(賞与含む)が、育休中は育児休業給付金の支給があるため、大きな不安はありませんでしたが、手当については、2 ヶ月に 1 度まとめて振込されるため、少しだけ生活費のやりくりを工夫しました。

### 【産休・育休が明けて】

復帰したばかりの頃は休日に夕飯や離乳食の作り置きをして平日に備える、の繰り返し、仕事も迷惑をかけてはいけない…と、とにかく必死でした。ですが、当時の上司が子育て経験のある方だったこともあり、仕事はもちろん、気持ちの面でも支えていただき、とても気が楽になりました。

現在は、少しでも子どもとの時間を確保できるよう、宅配や冷凍食品も利用し、平日の家事はなるべく楽をするよう心がけています。それでもどこかいつぱいいつぱいで家族に強く当たってしまうこともあります…

子どもが 2 人いると順番に熱を出すこと少なくありません。看病も 1～2 日では済まず、夫婦どちらが仕事を休むか、病院に連れて行くか等、日々綱渡りです。現在の部署でも、ありがたいことに上司や同僚に恵まれ、助けていただきながら子どもたちの緊急時にも一緒に過ごすことができています。

### 【最後にひとこと】

以前受講した研修で、子育て経験のある職員の方から、家庭と仕事の両立について「低いところでもいいからバランスを取って」という言葉がありました。まさに今の私にピッタリです。今は自分が納得いくまで仕事に打ち込むことは正直できませんが、子どもたちの笑顔を見ること、そして私自身が毎日笑っていられることが一番の希望です。ただ、あと数年? 十数年? 後、また仕事に全集中できる日が来たときに何もできない、ということがないように、仕事についても今できることを精一杯努力していきたいと思っています。

この原稿を書きながら、今私が置かれている環境は当たり前ではなく、本当に恵まれたことだと改めて実感しています。職員の方や、先生方、そしていつも応援してくれる家族には本当に感謝しています。

これからも感謝の気持ちを大切に、仕事も子育ても日々楽しく、そして一生懸命過ごしていきたいと思っています。

いつか私も恩返しができますように…